

## 第9回日中建築・住宅技術交流会議参加報告

### 日中建築・住宅技術交流会議について

1985年、(財)日本建築センターと中国建築技術発展研究中心(現中国建設科技集団)は、「第1回日中建築センター交流会議」を開催し、以降、各年または隔年で2002年の第12回まで開催しました。

2004年、より幅広い情報交換を推進するため、(財)ベターリビングと中国建築科学研究院を加えた4機関による会議を「第1回日中建築・住宅技術交流会議」(CC会議)と名称を変更して12月に開催し、その後、隔年で日中相互の開催地で実施しています。2014年の第6回からは、中国側は中国建築設計研究院(現中国建設科技集団)の1機関のみが参加して開催しています。

### 第9回日中建築・住宅技術交流会議(CC会議)

1. 開催日時：2018年9月11日(火)
2. 開催場所：軽井沢プリンスホテルウエスト「浅間」
3. 主催機関：日側；(一財)日本建築センター、(一財)ベターリビング  
中側；中国建設科技集団股份有限公司

#### 4. 参加機関：

日側：35名

(一財)日本建築センター8名、(一財)ベターリビング6名、(一財)高齢者住宅財団2名、国土交通省住宅局3名、日中建協：12社15名と事務局1名、16名

株式会社アール・アイ・エー/AGC株式会社 各1名/河村電器産業株式会社  
2名/積水ハウス株式会社3名/大和ハウス工業株式会社/TOTO株式会社/  
ナイス株式会社/株式会社日本建築住宅センター/パナソニック株式会社/  
ミサワホーム株式会社/株式会社LIXIL/YKKAP株式会社 各1名  
日中建築住宅産業協議会 1名

中側：35名

中国建設科技集団股份有限公司7名  
中国建築設計研究院有限公司6名  
中国建築標準設計研究院有限公司4名  
中国城市建設研究院有限公司3名  
深圳華森建築与工程設計顧問有限公司5名  
広州華森建築与工程設計顧問有限公司1名  
中国市政工程華北設計研究総院3名  
上海中森建築与工程設計顧問有限公司3名  
中設投資有限公司1名  
中国建築設計諮詢有限公司1名  
亜太建設科技信息研究院有限公司1名



#### 5. 会議プログラム：

- 09：00～09：50 開会式(日中主催者代表挨拶、日中団員・参加者紹介)  
10：00～10：40 日側発表1：日本の高齢者住宅～制度と事例  
10：40～11：20 中側発表1：居住環境バリアフリーの現状と技術開発  
11：30～12：15 日側発表2：日本の高齢者対応住宅部品の開発動向  
13：15～14：00 中側発表2：共感からの設計戦略  
14：10～14：20 会議総括  
14：20～14：30 覚書読み上げ、調印  
14：30～14：40 記念撮影、閉会

#### 6. 日側発表について

1) 日本の高齢者住宅～制度と事例 (一財) 高齢者住宅財団 落合明美氏

日本は世界で最も高齢化が進んだ国であり、2016年の65歳以上の高齢化率は27.3%である。今後さらに高齢化が進んで、高齢者のみの世帯が増加していく中、高齢者向け住宅は入居者主体の考え方に変化してきた。その高齢者住宅の具体的事例として、シニア住宅「ボナージュ横浜」と、「わかたけの杜プロジェクト」を紹介した。

中国側からは計画当初と現在のソフト、ハードの変化や、計画時の規模決定のプロセス、現在の入居状況についての質問があった。

2) 日本の高齢者対応住宅部品の開発動向 (一財) ベターリビング 島田義順氏

高齢者住宅に関する国の施策として、住生活基本計画、住宅品確法、住宅性能表示制度、高齢者等配慮対策等級がある。ベターリビングには優良住宅部品認定制度があり、高齢者に配慮したドア、サッシ、手すり、水回り、火災警報器などの優良住宅部品の紹介と、取り組みについて説明があった。

中国側より、メーカーとの連携方法や、圧送便器開発に至った経緯についての質問があった。

7. 中側発表について

1) 居住環境バリアフリーの現状と技術開発 中国建築設計研究院 婁霓氏

中国の新規の都市や住宅にはバリアフリー設計の考えがあるが、法律法規および基準体系はまだ初歩的段階である。また旧市街、旧公共施設、老朽住宅にはバリアフリーの考えがなく、改修するにも問題が多い。このような状況の中、研究機関、学者、企業、使用者が自身の目線で問題解決の提言をしていくことが必要であり、その解決モデルも生まれてきている。

2) 共感からの設計戦略

深圳華森建築与工程設計顧問有限公司 王瑜氏

中国では高齢化が急速に進んでおり、2017年は17.3%であった60歳以上の人口比率が、2050年には34.9%に達する見込みである。そうした環境の下、高齢者施設を設計するにあたり、設計者が自らの動作を制限する器具を取り付け、高齢者の動きの疑似体験をして設計に生かしている。また、それが反映されたディテール設計の例と、具体的プロジェクトとして金陵天泉湖翡翠谷社区在宅介護プロジェクト、深圳幸福之家保険会社投資高齢者マンション、湖南晨輝宜居老人ホーム民間企業介護プロジェクトを紹介した。

中国ではまだまだ同居する子供が親の介護をするのが一般的であり、高齢者住宅の戸数は少ない。今の30代、40代が高齢者になったときは、高齢者単独の世帯が増加すると思われるため、高齢者住宅がますます必要になってくると思われる。

8. 会議の総括

(一財) ベターリビングの井上理事長より、本日の発表内容の総括と、日中の情報と知見を共有することにより、今後の双方の課題解決の参考となることが期待されるとのコメントがありました。

9. 覚書調印

日中双方より、会議が成功裡に終了し成果が得られたことの報告がありました。さらに2019年、今度は中国において「第10回日中建築・住宅技術交流会議」を開催することに日中双方が同意し、3機関の代表者が署名を行いました。

今回の第9回日中建築・住宅技術交流会議では、「バリアフリー」「高齢者対応」について日中双方からの発表がありました。この分野については先に高齢化が進んだ日本の経験が、中国の参考になる部分も多く、今後日中間の協力がより求められ、会員企業の皆様にとっても事業参画の機会が窺えるのではないかと思います。

詳細については、会報誌『日中建協 NEWS』No.236号(2018年11・12月号)に記載しています。